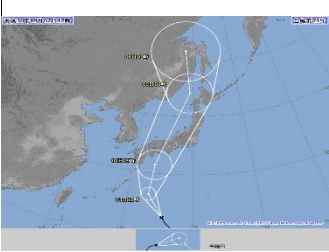


(台風実況 9月4日午後4時) 今、台風21号が大阪を直撃し通過中です。すごい雨風、ミタクリも停電で、全ての機能が停止しています。電話も通じません。明日5日の診療をどうするか検討中です。



《気象庁HPより》

### 【ニュース】

#### 1. 診療日の変更をお知らせします。

今月の休診はありません。

10月4日(木曜日) 巽休診 米本通常通り

5日(金曜日)・6日(土曜日)は、恒例の大鳥美波比(みはい)神社のだんじりでお休みとなります。

#### 2. 9月は大腸がん検診月間です(再掲)

「便の検査」で大腸がんの検査が簡単にできます。65歳以上の堺市在住の方は負担なしです。詳しくは、受付までお問い合わせください。

#### 3. 長谷川式検査がいつでも受ける事が出来ます

物忘れに悩んでおられる方(ご家族の方でも)、おられませんか。この検査は、記憶力などのチェックが5分程度でできます。遠慮なくお申し出ください。

#### 4. 日曜日に乳がん検査を受けられる医療施設

10月第3日曜日に乳がん検査を受けられるJMS(ジャパン・マンモグラフィ・サンデー)のお知らせです。今年10月21日がその日です。ただ、堺市に限れば、3病院(清恵会病院・馬場記念病院・田仲北野田病院)だけです。ちょっと少ないですね。

### 【ミタクリ漢方のはなし 陀羅尼助(だらにすけ)のこと】



皆さんは、奈良県の陀羅尼助のことはご存じでしょうか。今回はその由来をご紹介します。白鳳年間(天武天皇の時代)に疫病が流行りましたが、策を講じてもなかなか終息しなかったのですが、修験道(しゅげんどう)の開祖である役行者(えんのぎょうじゃ)が大峰山(おおみねさん)に自生していたキハダ(黄柏)を陀羅尼経(だらにきょう)を唱えながら煮詰め、これを「陀羅尼助」と名づけて人々に与えたところ、その効果は絶大で多くの人命が救われました。薬草を煮つめて得られる少量のエキス成分を、お経の大切な力所・陀羅尼経(ご真言)に見立てたのかもしれないね。このお薬が「陀羅尼助丸」で、役行者がその後洞川(どろがわ)の村人に製法を伝授し、江戸時代には和漢胃腸薬の妙薬として民衆の中に広まっていきました。現在ではキハダの樹皮を大峯の寒水を用いて抽出した水製エキスにゲンノショウコ、ガジュツなどの

整腸薬や芳香性健胃薬を配合・成丸し、乾燥させています。

陀羅尼助にはいくつかのバリエーションがあります。少しみていきましょう。大峰山(天川村洞川)の銭谷小角堂、吉野勝造商店、松谷清造本舗、花谷神変堂および当麻寺の陀羅尼助は、原典通りキハダにゲンノショウコ、ガジュツを加えたものです。また藤井利三郎薬房ではオウバク・ゲンノショウコにセンブリ・ゲンチアナ・延命草が入ってます。また高野山の陀羅尼助(大師陀羅尼製薬)は、キハダ・リュウタン・アオキで構成されています。キハダを主成分とする伝統薬は遠く愛媛県(石鎚山陀羅尼助丸)、長野県(御岳百草丸)、鳥取県(大仙煉熊丸)に伝わっています。地産地消ではありませんが、その地で採取される薬草が、その地で暮らす人々の健康に大いに役立ってきたことを、もう一度見直して、これからの薬草治療のあり方を考えていきたいと思っています。

## 【欣子先生の診察室だより】



先週、奈良の宇陀に行ってきました。朝晩めっきり冷え、稲穂も黄色くなって本当に秋！でした。大阪は相変わらず湿気と暑さでげんざりしますが、実はお盆の次の週ぐらいから下痢の方がたくさん見えて診察室では“秋“を感じていました。お腹の弱い人が真夏と同じように冷飲食を続けると調子が悪くなり、いわゆる”秋バテ“症状です。そんな方には朝からお味噌汁をおススメしています。適度な塩分もあり発酵食で腸内環境も整え胃腸も温める・・・これからの季節、お野菜もたっぷり入れて朝から胃腸を温めていきましょうね。

さて、先月の診察室で・・・「あんた、えらいんやなあ！！」「いきなりなんのことですか？」

「医学部、女子はなかなか入れへんらしいやんか。これからは巽先生に敬語をつかいます！笑笑」といいながらも「ほな、さいなら」と帰って行かれました（笑！）東京医大の入試で女子と多浪生に差をつけていた問題のことです（出身校ではないですよ）。私たちの時代には小論文はなかったのですが、確かに面接でひどいことをたくさん言われました。「女性なのに・・・医者じゃなくて看護婦（当時はそう呼んでいました）になったらどうなの？」「結婚して子供産むとか考えてんの？」などなど・・・いまでいう“圧迫面接”のような嫌な雰囲気での質問で、当時はムキになって反論した記憶があり・・・その結果かどうかわかりませんが面接のあった大学はすべて不合格でした。面接がなかった大学も、女子が増えすぎ調節するために面接を導入した、という噂もあり今回のニュースは「やっぱり」という感想です。確かに医者になってからの勤務は激務でした。朝から仕事をして当直に入りほぼ寝ずに対応しても翌日夜診まで仕事をすることもありました。「入り」や「明け」なんて全くなかったです。出産後、保育所にもなかなか入れず共同保育所に預けたこともありますし、大急ぎで仕事を終わらせ保育所のお迎え時間ぎりぎりに滑り込み、家に帰ったら足にまとわりつく子供を払いのけながらご飯を作って食べさせ洗濯片付けお風呂に寝かしつけ・・・私のいた病院はとて女医に優しく、当然のように当直免除でしたが、その分休日の日直・・・結果身体を休めることができず心身の不調を来たして常勤をやめました。連日当直の男性医師に申し訳なく思う一方、自分のキャリアが積めず悩んだ時期もあります。ある日ひとりの男性医師が「男性は365日同じ体調ですよ」と聞いて、ふっきました。女性は生理もあり月の半分ぐらいは調子が悪い。出産は女性しかできないけど育児・家事は男性もできる、でも女性にだけ負担が重い現実（ここはポイント！）。男性と張り合っても仕方がない・・・生理のしんどさも育児の経験も、どれほど医者の成長に役に立ったか。苦労したから頑張りすぎの女性やお母さんにアドバイスができます。子供の成長にともなう心身の状態も家族内の葛藤も理解ができます。大学病院では研修日となる休日や当直のアルバイトに精を出して生活費を稼ぐのです。長時間労働に耐え、当直明けに手術をするようなタフな医師ばかり必要ですか？とって医師の残業代を払うと国民医療費は増大しますし、今の患者数をいまの医師数では診れません。そうならないために社会保障費を増やし医師を増やすのか、患者が簡単に医療機関を受診できないようにするのか？今回の問題は男女差別だけではなく今の医療問題の縮図です。今年、クリニックでは堺市立総合医療センターからあと二人の女性の初期研修医を受け入れます。皆さんには、患者としてどんな医療をうけたいのか、研修医とともに考えながら医師養成に協力して下さったらうれしいです。

### 【外来担当医一覧 2018年9月現在】

予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	巽 米本	三谷 米本	巽/三谷	巽 米本	巽/三谷	三谷
午後(14:00-16:00)	巽(予約) 米本(訪問診療)	巽(訪問診療)	巽(予約) 三谷(訪問診療)	巽(訪問診療)	巽(予約) 米本(訪問診療)	
夜診(16:30-18:30)		三谷	三谷		三谷	